題字は第六代塩田会長

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会
秋田市手形字中台一番地
TEL 018（832）9553
印刷所
有限会社 三浦印刷

平成12年度
同窓会入会式
394名の新会員を迎える

去る二月一日（木）、来賓の東海林明夫母校PTA会長や、高橋幸臣校長以下の多くの教職員、さらに本会の丸山健会長ならびに小玉得太郎、辻兵吉、井上房子の各副会長を初めとする五十余名の同窓会員等が見守るなかで、平成十二年度同窓会入会式が午前十時から母校体育館において挙行され、新たに三百九十四名の若々しい会員を迎えた。

越中谷孝一氏（昭和59年卒）の司会で始まった式では、まず丸山健会長が冒頭の挨拶。その中で丸山会長は、イェーリングの名著『権利のための闘争』を紹介し、その中にある「法の目的は平和である、しかしそこに至る道は戦いである」という一節を引用して新入会員へのはなむけの言葉とした。

式はその後、先輩からの激励に移り、今年は、現在、大森町の町長を務めている備前雄一氏（昭和40年卒）が同窓会を代表して激励の言葉を述べた。

あいさつする井田君

議員としての経験と実績に裏打ちされた同氏の言葉は新入会員たちに深い感銘と、これからの人生に対する希望や勇気を与えてくれた。

続いて、小玉副会長から新入会員代表の井田有亮前生徒会長に記念品（文鎮）が手渡され、小玉副会長は、記念品のデザインとなっている秋高の徽章について短いコメントを付け加えた。

その後、新入会員を代表して井田君が挨拶をしたが、その中で井田君は、まず盛大な入会式を催してもらったことに対して謝意を表明。さらに全国各地で問題となった今年の成人式を例に出しながら、新しい若者像に言及し、秋高同窓会の一員としての抱負を淡々と述べた。

式の最後は、恒例になっている校友会歌の斉唱で、参加者一同は、ブラスバンドの演奏に合わせて声高らかに斉唱。例年になく多い雪と厳しい寒気を吹き飛ばして式次第の一切を終えた。

提言
散歩の効用
〝みなさんもあるきませんか〟
佐渡谷 栄悦（昭和35年卒）

平成九年五月連休の最後の日、いつもの通りの夜十時過ぎの帰宅、宴席でたっぷり食べて、二次会も充分楽しんで来たのに、愛妻にお茶漬けをお願いした。できるまでの間、軽く水割り一杯、いつものパターンである。

今日一日の報告を聞き終りさあ寝ようと立ち上がった瞬間グラリと体が揺れ、上手に立てない状態になった。すぐ友人の医師から往診してもらい状態を看てもらったら、一過性の高血圧が原因でそうなったのだから二～三日休めば治るとのことだった。それまで健康には自信があったので特に何も注意するということはしなかった。しかしこの事件を契機に体を全部診てもらおうと思い検査入院をした。

結果は典型的な生活習慣病で、担当の先生よりもう五年も生きればいいほうだと言われた。病気を直す為に医師の指導を受けた。それは食事と運動だった。一日一千カロリーのバランスよい食事。

運動は毎日二十分以上歩くこと。無理をすると永続きしないから決して無理をしないで少しずつ徐々に始めなさいという注意を受けた。

以来本日まで一日も欠かすことなく歩いている。単純な散歩を永続させるには散歩コース選択と着る物と靴だとおもう。

私は三つのコースを選定している。一つは草生津川の堤防の完備された遊歩コース、二つには旧電車道コース、三つ目には秋田港のセリオン、フェリー岸壁以北コースだ。

三つのコースの選択は当日の時間の余裕、体調、気分によって決める。いずれのコースも変化があって楽しいが特に草生津川コースは鴨、鷺がいたり春の桜、秋のコスモスそして春の魚の大群に逢ったりし四季折々変化があって楽しい。旧電車通りコースは高校時代の電車通いを思い出し懐かしい。港コースは外国船が見れて想像が広がる。

ウェアは中に着る物はユニクロ製品。外はダンロップ社のゴアテックス、これは優れ物で冬温かく夏涼しい。高価だがお勧め品だ。靴はナイキ。今は四キロを三十七分、五千百歩で歩く。

お陰で七十八キロあった体重が今は六十七キロ、三度の食事と同じで毎日歩かないと一日が終わらない。出張時も必ず歩く。特に東京の皇居の周辺は最高だ。昨年春の叙勲で藍綬褒章を戴いた時皇居の中の豊明殿へ案内された。いつも外ばかり歩いていて、歩いている時は機会があれば中に入りたいと思っていたので感銘深かった。毎日の散歩いいですよ、人生観が変わりますよ、皆さんも歩いてみませんか。

※補足―江戸の終りから明治にかけて活躍した政治家勝海舟は、実は〝散歩〟を始めた人でもあるのです。長崎で勉強をしている時、彼はオランダ人の先生が散歩をするのを見て不思議に思いました。

そのころの日本で、用もなく町を歩くことはいけないと思われていたので、散歩をする人はいなかったのです。

彼はさっそく先生のまねをして散歩を始め、それが世の中に広がります。

激励の言葉
人生は分かれ道の連続である
備前雄一氏（昭和40年卒）

私は秋田市出身ではないので、手形陸橋の近くに下宿しながら秋田高校に通った。下駄履き、長髪で、学校までは近かったがバイク通学をした。

入学当初は水泳部に入部した。しかし、一杯のクリームパフェを御馳走になったことがきっかけでバドミントン部に移った。私にとって最初の大きな分かれ道であった。

なぜなら、そのバドミントンのお蔭で青山学院大学への進学が実現し、大学でもバドミントンを続けたことが、現在の妻と結婚する道につながっているからである。

私の実家は造り酒屋だが、大学卒業後、家庭の事情で郷里に帰った。私にとって第二の大きな転機と言える。

帰ってみると、自分の町には何もないことが分かり、町を魅力あるものにするには、政治の力によるのが一番だと考えて政治家を志した。二十五歳の時であった。

町長を目指したいと思ったがわずかのところで被選挙権を得られる年齢に達していなかったため、町会議員に立候補して当選した。この辺りも自分の分かれ道になっていたと言える。

二十八年間議員を務めたが、やはり町全体に関わる仕事をするには町長の方がふさわしいと考え、町長選に挑んだ。最初の時は落選したが二度目には当選できて現在の自分がある。

今、地方自治は三割自治と言われる寂しい状態にあるが、自分で選んだ道だから全力で取り組んでいく覚悟である。

皆さんは間もなく秋田高校から巣立って行こうとしているが、日本の社会の至るところに秋高の同窓生がいる。秋高という学校は大きな広がりをもった学校なのである。私は、秋田高校出身であることを大変誇りに思っている。

皆さんがこれからの長い人生を送っていく間には、実にたくさんの分かれ道があるはずである。どちらに進むか自分で選択できる場合もあるし、自分と関係ないところで新しい道を決められてしまうこともないではない。

また、自分の判断で選択できる分かれ道に立っても常にベストの道が見つかるとは限らない。そういう時は必ずしもベストに拘泥せず、ベターで満足することが大事である。

将来、皆さんが分かれ道に遭遇した時、今日の私の話を多少なりとも思い出してもらえれば幸いである。

東大学長に佐々木氏（昭和36年卒）

昨年暮れに行われた東京大学の学長選挙で、本校OBの佐々木毅氏（昭和36卒）が第二十七代の学長に選出され、四月から就任する。

本校の卒業生で東大の先生になった人物は過去にも存在するが、学長は、本校のみならず、秋田県としてもまったく初めての快挙で欣快に耐えない。

佐々木氏は千畑町出身。本校卒業と同時に東大法学部に進み、政治学史を中心に研鑽を積んで助教授、教授と順調に昇進、平成八年から昨年三月までは法学部長も務めた。

著書に「プラトンの呪縛」「マキャヴェリの政治思想」「アメリカの保守とリベラル」等がある他、各種マスコミを通じて積極的に発言している。

高校時代の同級生の話によると、氏は、ガリ勉型とは異なる掛け値なしの秀才で、独立行政法人化等、変革期を迎えた大学教育の諸問題解決のために優れたリーダーシップを発揮することが期待されている。

天上天下

二十一世紀が幕を明けた。新世紀への結び目の年にあたって更なる百年に向けてスタートを切ったわけである。秋高同窓会もこれまでの年輪に新たな年輪を刻み続けるのだ▼二千一年は建学以来百二十七年目を迎え、新会員男女約四百人が加わり、同窓生総数は三万三千五百余（うち物故者六千二百余）で現会員数二万七千六百余人を数える。その多くは、国内外のあらゆる分野で活躍しており、まさに伝統の重みを物語っている▼〝だより〟のコラム「天上天下」の題名は「会員が天上、天下にあまねく分散してそれぞれ活躍し同窓の連帯のきずなとなるとともに切磋琢磨の場となってますますの充実、前進を願う」ことからの命名という▼平成十五年九月の百三十周年にあと二年と迫り、記念事業の一つとして同窓のわが国の先覚者にスポットをあてた「秋高の歴史にみる人物像列伝」の刊行はすばらしい好企画である。すでに準備は進み、羽城館には着々と資料が収集されているという。

〝だより〟にも連載が始まり話題となっている。秋中一期で民政党統裁としてわが国憲政史に名をとどめた町田忠治。三期では浜口内閣の文相で秋田鉱専（現秋大工学資源学部）の創設者田中隆三。十九期でゲーテ研究の権威木村謹治ら三十八人が名を連ね刊行にむけて編集が進んでいる。二十世紀に活躍の先人の情熱が新世紀に語り継がれるのだ▼折りしも今世紀の第一歩を鼓舞する朗報が飛び込んだ。秋高十三期、佐々木毅氏（千畑町）が今年四月、東大二十七代学長に就任する。日本再生の教育改革の舵取りでもある。メッセージは〝まず基本に返れ〟と決意をみなぎらせる手腕が期待される。

第二回理事会

＝百三十周年を視野に＝

今年度の第二回理事会が、昨年十二月八日（金）午後五時半から秋田市の弥高会館において開催された。理事会には七十人余りの理事が出席し、常置委員会報告、新入会員入会式、本年度事業中間報告、創立百三十周年記念事業等の各種報告や案件をいずれも原案どおり了承した。

恒例によりまず物故会員に黙祷を捧げた後、丸山健会長が開会の挨拶を行い、次いで高橋幸臣校長が学校を代表して挨拶をした。

挨拶の中で高橋校長は、まず十一月に行われた生徒会主催の公開シンポジウムがマスコミ等でも高い評価を受けたことを紹介した。ついで高橋校長は、間近に迫った大学入試に取り組む状況について数字を挙げながら具体的に説明した。その後、部活動の活躍ぶりに話が移り、その中では、柔道部が七年ぶりに全県新人戦で優勝し、三月に日本武道館で開催される全国大会に出場することを報告した。

次いで理事会は、慣例によって丸山会長が議長席に着いて議事に移る。

最初は常置委員会報告で、企画委員会は山谷浩二委員長、財政委員会は速見洋子副委員長、広報委員会は藤原豪男委員長、名簿委員会は欠席の工藤委員長に代わって斎藤広孝事務局長がそれぞれ所管事項を簡潔に報告した。

二つ目の議題である新入会員の入会式については、期日・場所ともに例年どおりで、二月一日に母校体育館で挙行することが決定され、当日の激励者には備前雄一氏（昭和40年卒、大森町町長）が選ばれた。

本年度事業中間報告は斎藤事務局長が行い、一般会計、名簿会計、会費納入状況等について詳細な資料に基づきながら説明。いずれの分野も概ね順調に進捗しつつあるとの報告があった。

議事の最後は、母校創立百三十周年記念事業についてで、ここではまず、丸山会長を長とする百三十周年実行委員会と、小玉得太郎副会長を長とする総務委員会の設立が認められた。

また、記念事業を具体的に推進していく機関として、既存の四常置委員会の他に、校史、施設の二特別委員会を設置することが決定された。

学校側から提示された事業要望事項を踏まえ、記念事業を具体的にスタートさせていく体制が整ったことになる。

随想

インドの旅から

高貝　菽子（昭和30年卒）

十月中旬のインドは南国らしい青空の広がった晴天続きで、雨期明け後の適度な湿りと爽やかな微風が心地よく旅の心を癒してくれた。『玄奘三蔵のシルクロードを行く旅』（なら・シルクロード博記念国際交流財団、他の企画による）でインド十六日間の滞在によって古代仏教遺跡にふれたことは大きな感激であった。勿論、観光もあったが、都市部では相反するあらゆる要素が混在していて心重く、あまり楽しむ気分にはなれなかった。ムンバイ湾に落ちゆく夕日の出の荘厳も、そこに暮らす人々の厳しい有様に圧倒されながら胸に刻んだ。しかし仏教には、「生きること」へのメッセージがあるのではと模索していた私は原始仏教の世界と出会ったことで安らぎ、励まされたのだ。

さて、この旅行には奈良薬師寺の玄奘院を起点にインドまでのアジア大陸横断の道を四年四回に分けて行くのである。中国、中央アジア（旧ソ連から独立したカザフ・キルギス・ウズベキス〝タン〟の国）、パキスタン、インド、ネパールの七国に及ぶ三蔵法師の足跡を訪ねて仏教伝播を遡ってその発祥まで辿ったのだ。ここに至って、私は初めて釈迦の実在性・現実性への確信を得ることができたと思う。

それまで靄に包まれた感じしかなかったのが、人間・ゴータマ＝シッダールタという開祖が、生まれ悩み、瞑想し覚者となったその地への訪れによって、自分の心の内で確固としたものになっていると感じられたのであった。

このような心境になったのはなぜか。旅の回を重ねることによって「アジア初体験」の驚嘆の数々も内面的に鎮静して原初的反応から少しずつ解放されたこともあろう。また私の仏教への狭隘な固定観念の有象無象が各地様々の仏蹟を巡る内に次第に流されていたことによるかも知れない。

しかしそれ以上に、ここの聖地に開発の手が及ばず、美しい樹木の繁る恵み豊かな自然に囲まれていたことである。二千有余年の昔、釈尊に相応しい閑雅静寂の地が選ばれたのか、不思議に精神性を帯びた空間であった。ルンビニ、祇園精舎、ブッタガヤ、霊鷲山等々心落ち着かせる雰囲気であった。それに忘れ得ぬのは阿育王建立のライオンを乗せた石柱が誘うようにそびえていることだ。また三蔵法師の「大唐西域記」を現地で読み合わせるとその記述がほぼ正確であることに驚かされる。前三世紀の石柱、七世紀の記録、二十世紀末の私共が悠かな時の流れを超えて釈尊のもとに結ばれていることを心奥に銘ずるのみであった。

無仏像時代のサーンチー遺蹟に象徴的に表現された釈尊、赤色砂岩で造られた二世紀前後の初々しいマトウラ仏など古代の人々の純朴な信仰世界へ誘ってくれたことに感謝いっぱいの旅であった。八歳の兼好が発した問い「仏は如何なるものにか候ふらむ」は今改めて私自身へ問いかけてくる。これは人生の第二ステージに向かう私に課せられているようでもある。

歴史に見る秋高の人物像

山本時男

世界に冠たる「メダカ博士」

「メダカ博士」として親しまれている山本時男は、明治三十九年（一九〇六）二月十六日、二ツ井町富根で、八人兄弟の長男として産声を上げた。

時男少年は、四季の自然豊かな米代川の河畔を自由に走りまわりながら元気に成長、そのなかで生物、とくに昆虫や魚類に対する関心を深め、それが、後に動物学を志す動機につながっていった。

富根尋常小学校を卒業した山本はあこがれの秋田中学に進学、優秀な成績で卒業すると、弘前高等学校を経て東京帝国大学理学部動物学科に進む。

昭和四年に東大を卒業すると同時に理学部の助手を命じられ、山本の学者としての人生がスタートする。

研究者生活に入って六年目の昭和十年に結婚した山本は、翌十一年に「メダカ早期胚における律動性収縮運動」（英文）と題した論文で理学博士の学位を取得、このテーマに関する研究を約十年つづけて、金魚、マス、シラウオなどメダカ以外の魚類の卵でもこのような収縮運動があることを明らかにした。

この運動は筋肉の未分化な卵に見られ、卵表下のペリプラストという原形質の収縮によるものだという。これの温度恒数（見かけの活性化熱）は、呼吸運動や心臓搏動などとは異なり、発生速度のそれと一致する。これは、この運動が発生を速めるのに関係することを示唆していた。

また、種々の魚卵の研究では、原形質に比して、卵黄の多いものほど運動が顕著であり、したがってこの運動は一種の攪拌作用で、卵黄の吸収に役立つものと、山本は推論したのであった。

昭和十七年（一九四二）、名古屋帝国大学に理学部が創設されると、山本は講師として招聘され、家族を伴って名古屋に移り住む。同年中に助教授、翌十八年には教授に昇任して動物学第二講座（動物生理学）を担当した。

山本の二番目の主要研究テーマである魚卵の受精生理は、律動収縮運動研究の後期と重なるかたちで進められたが、それは、東大時代後半から名大時代の前半にわたって約十七年間つづけられた。この研究の主要材料もメダカで、ほかに金魚、ワカサギ、スナヤツメなどが用いられた。

この研究途上の昭和十四年、山本は、メダカ卵の浸透圧測定結果に基づいて等調塩液を調製し、等調液受精法を創案する。

山本は、これを用いて一連の輝かしい業績を上げ、昭和十九年には「受精波説」を提唱する。これは、未受精卵の表層は多数の表層胞で満たされているが、精子貫入時には表層胞の崩潰に先立って、表層胞を崩潰させる「波」が伝播するとした説である。すなわち、未分化の未受精卵細胞にも一般刺激系と類似の「刺激―興奮系」の存在することを明らかにしたのである。約十年後、この説は、ウニ卵を用いた実験でも国内や海外の学者によって立証された。

この等調塩液は、サケ、マス等の養殖用の人工授精やアイバンクの角膜保存液としても実用化されている。

昭和二十年五月十四日、名古屋地方は米軍の大空襲を受け、名大の研究室も全焼して、山本は研究資料のほとんどすべてを失ってしまう。

戦禍に苦しめられた山本だが、学問に対する情熱は少しも衰えず、疎開先から戻った山本は、新しく性分化の研究に取り組むことによって不死鳥のようによみがえる。

山本は、メダカの性染色体の遺伝子型はオスXY・メスXXであるが、出現頻度の低い白のメスと緋のオスを交配し、それによって作られた子の緋のオスを白メスに戻し交配することによって、性と染色体が一致する特殊なメダカを育種した。この結果、白はメスXX、緋はオスXYとなり、体色によって遺伝的なオスかメスかが容易に判別できることになった。山本は、こうして手に入れたメダカを用いて、性ホルモンによる性分化の転換を確定的に立証していく。

研究に研究をつづける山本は、男性ホルモンや女性ホルモンを巧みに操作することによって、オスからXYメス、メスからXXオスという両方向の性転換を可能にしただけでなく、性転換魚同士（オスXX・メスXY）の交配を実現し、さらに天然にはまったく存在し得ないオスYY・メスYYの交配も実施してその量産にも成功する。

さらに、研究はメダカから金魚へと発展して、金魚についても双方向への性分化の転換に成功、自然界との間に子孫を作らせた結果、検定交配の性比から、金魚の性染色体の遺伝子型がオスXY・メスXXであることを明らかにすることにも成功した。

こうした魚類の性分化の遺伝子学的・発生生理学的研究を通じて山本は、日本に初めて魚類の発生遺伝学を確立したのであった。

山本の研究は海外でも高い評価を受け、昭和三十五年には招かれてアメリカ、イギリス、フランス、イタリア、トルコの五カ国を三カ月にわたって訪問、各国の大学や実験所で、魚類の性分化に関する講演や討論を行った。

さらに昭和四十年十月から翌年二月まで、ニューヨーク州立大学の客員教授として招聘され、富田英夫博士を伴って渡米した山本は、同大学にメダカの実験室を作り、それを利用して研究ならびに研究指導を行った。

山本の講演は母校の秋田高校でも何度か行われており、講演内容に触発されて名古屋大学に進学、そのまま理学部の教授となった丸野内棣博士（S33卒）のようなOBもいる。

他方、山本は、多くの著書を上梓して自説の普及に努める一方、日本動物学会評議員、日本遺伝学会幹事、日本魚類学会評議員などの要職に就き、さらに「日本動物学会彙報」（英文）「エンブリオロギア」（英文）等の編集委員も務めるなど、学会の発展にも多大の貢献をした。

長年にわたる山本の独創的な業績に対しては数々の賞が与えられているが、その主なものを年代順に列挙すると、日本動物学会賞（昭和二十五年）、中日文化賞（同二十七年）、日本遺伝学会賞（同三十二年）、紫綬褒章（同四十六年）とつづき、昭和五十一年には、四月に勲三等旭日中綬章、六月に日本学士院賞を授与されている。

名古屋大学を昭和四十四年に六十三歳で定年退官した山本は、招かれて名城大学農学部の教授に就任するが、同年八月に食道にガンが発見されて、二年間、名古屋大学付属病院での入院生活を余儀なくされる。

一時は職場復帰できるまでに回復するが、六年後に今度は胃部に再発、ついに昭和五十二年八月五日、家族や大勢の愛弟子に見守られながら、七十一歳を一期にその輝かしい生涯を終えた。

遺骨は、生前、山本が関心をもっていた蓑虫山人の墓がある名古屋市内の長母寺に埋葬されたが、一部は分骨して、郷里にある山本家先祖代々の墓地に納められた。

部活動紹介　茶道部

茶道部は、文化各部の中では比較的新しい部だが、その活動内容や部員数などからみると、今や文化部を代表する部活動の一つになっている。部の性格を反映して女性が圧倒的に多く、男性は「貴重な存在」と言えそうだが、OG・OBともに各分野で幅広い活動を展開している。今回は、茶道部の現在と過去をそれぞれの関係者から紹介してもらうことにした。

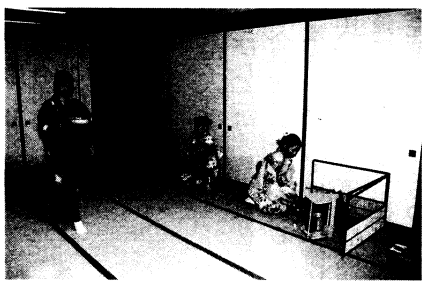
茶道の心

茶道部顧問　石黒みどり（国語教諭）

古い日誌を繙くと昭和四十八年に同好会から昇格とあるので彼此三十年近い活動歴の、由緒ある部と申し述べたい。

ここ十年、指導に腐心して下さっているのは、遠州流御家元太田宗泉先生である。船越からの遠路をご足労願って毎週木曜日の放課後、研修会館三階の和室で稽古をつけて頂いている。

礼・座り方に始まる立居振る舞い、帛紗さばき・お点前の所作・道具の見立て・茶室の整え方etcと、心得から作法に至る一切を教えて頂きながら、「秋草のお茶会」や「涼風のお茶会」を成果発表の節目として活動している。



最近では、家庭科の授業で「伝統文化に則った人間関係の構築指導」として茶道教室が実施されていることもあり、一段と身近に感じられるようになったのだろうか、年二回のお茶会は益々活況を呈し部員一同の大きな励みとなっている。

女子主体で、常時二十名前後と少人数ながらも部員は、心を合わせていずれも真面目にお稽古一筋、茶道の心を体得しようと懸命である。

さて、その茶道部の魅力はと問われるなら、太田先生の御指導の素晴らしさとすぐさま答えよう。

小堀遠州流の「綺麗さび」を正しく体現なさっているその佇まいの美しさに、誰もが魅了され深く感じ入って教えを仰がずにはいられない。

艶やかさと気品・慈愛に満ちた御指導には、いかな当世風ギャル連も、自然に背筋が伸び、三年間でものの見事に、自律の面差しを宿した大和撫子に変身し、一期一会の心に即した流れるようなもてなしの挙措をものして巣立ってゆくのである。

話し方や発声にも、入学当初の幼い甘えや無駄が除かれ、相手を配慮し自制する気配が感じられるようになり、傍らにいてすがすがしい。自己チューは、ほぼ一掃されると言ってよいか。

思うに、茶室における「和」の空間を体感していくというのだろうか。どの生徒にも、己を律して他と調和しようという健気さ、やさしさの表情がうかがわれるようになる。

煩雑な形式・作法の修練は主客相和す心の豊かさを自然に紡ぎ、モラル・ハザードな社会を自己チューに生きがちな若者の心を柔らかく変容させていくように思われるのだが―。

生徒たちは、茶道の「和敬静寂」の空間に身を置き、自分と向き合って心を浄化し、他と一体となるべく祈りをささげる、至福の時を過ごしているのだと、改めて太田先生に感謝し、部活動の意義に思いをいたす次第である。

「絆」を学んだ茶道部

目黒　聡子（平成10年卒）

茶道部に在籍していた三年間を振り返ると、穏やかな日溜まりのような日々が蘇る。

三年間最大の事件（？）は、一年生の冬に研修会館改修があり、羽城館に一時引っ越したことであろう。ロッカーから茶道具に至るまで部員総出で運び出し、二階の一室に仮住まいとなった。ちょっとした遠足気分にはなったものの、ござを敷いただけの床は正座には辛く、無事改修成って和室に戻った時には、畳敷きの立派な活動場所があることに心から感謝した。

部活動の集大成は、秋高祭での茶会である。これで引退の三年生は勿論、下級生も二日間の茶席を成功させるために、外の賑やかさを横目に水屋の暑さと格闘したものである。凝り性揃いの私たちの学年は、肝心の稽古そっちのけで楊枝入れ作りに夢中になり、その当時は和紙集めが妙に流行ったものだった。そう、「やりたい！」ということを行動に移すことにかけては、最強の団結を誇る仲間たちだった。深刻な新入部員不足に悩んでいた三年の五月末のこと、「何かパフォーマンスをしよう」という部長の戸澤さんの提案で、中庭で初めて野点を催した。池田校長先生を初め沢山の方が来て下さり盛況だった。何より嬉しかったのはOBの先輩が来て下さったことで、茶道部のタテの繋がりの強さを感じた出来事だった。私も卒業後様子を見に行きたいと思いながら、果たせていないのは残念なことである。

又、年に一回、船越にある太田宗泉先生のご自宅でお稽古を受けた。肝心のお稽古の記憶が曖昧なのが残念だが、皆で電車に乗った楽しさと先生の手料理の美味しさ、そしてお宅の大きさに圧倒されたことは、今も忘れられない良き思い出である。

現在も私は、古都奈良の地で茶道の稽古に励む毎日である。関西は京都を中心に茶道が大変盛んで、更に学生主催の茶会は社寺で行われるという楽しみもある。惜しいことに流派は変わってしまったが、確実に自分の世界が広がっていることを感じている。自らの来し方を思うたび、秋高茶道部の存在の大きさを感じずにはいられない。茶道の面白さとは、点前の腕を磨くこともさることながら、やはりその基本は人と人との心の交流にあると思う。ほんわかとしたお優しいお人柄の太田先生に見守られ仲間たちと互いに励まし合って歩んだ三年間。一服のお茶に心を込める喜びと大切さは、実生活での人とのふれあいにも、確実に活かされていると思う。

現在も、茶道部は堅実な活動を続けておられると伺っている。現役の皆さんには、素晴らしい先生と素晴らしい環境、そして何より仲間との絆を大切にしてこれからも頑張って頂きたい。茶道部の一層のご発展をお祈りしている。

参与の櫻谷吾朗氏帰幽す

本会の初代事務局長を務め、秋高同窓会の組織づくりを中心に、長年にわたって本会発展のために尽力して下さった櫻谷吾朗参与が、昨年八月二十九日に帰幽された。享年八十歳であった。同期の藤崎吉次氏（昭和12卒）より哀悼詩が寄せられたので掲げ、改めて櫻谷氏をしのびたい。

弔悼　櫻谷吾朗仁兄

八朔暁星寥落ノ天
親朋何ゾ慮ニ赴ク黄泉ニ
自ラ傷ム老涙伴ヒ陳跡ヲ
如キ此ノ悲腸随ニフ去縁ニ
文徳至誠魂魄盡キ
熏陶遺訓姓名傳ハル
思レテ君ヲ孤寂添ヘ惆悵ヲ
更ニ寄セテ新哀ヲ萬感牽ク

入試志願状況より

進路指導主事　榎　豊

今年度十二回目を迎えた大学入試センター試験は、一月二十・二十一日の両日にわたって実施された。参加大学は昨年より三〇校増え、四三三校、志願者は五九万人を越え二年連続で増加した。入学定員に対する倍率は四・一倍で昨年とほぼ同じであった。また現役志願率は三三・四%、男女の割合では女子が三九・七%でともに過去最高であった。ただし受験率は九一%で過去最低となり、AO入試や推薦入試の増加を反映しているようである。

センター試験の結果は、国語・英語・数学ⅠAの難化により五教科六科目総合（八〇〇点）全国平均で昨年より一四点ダウンの五〇二点となり、難化の状況となった。本校は五―六型で五八六・六点となり昨年より一〇・七点のダウンであるが、全国平均よりは小幅となっている。東北地区での位置は昨年と同じであるが、トップとの得点差は半減しており、実質的には健闘したといえる。得点分布では、難化によって八割台が減っているが（全国的傾向）、七割台は変わっていない。難化傾向とはいえ、全国的に上位校はマイナス幅が小さく、結局二次試験に向けてより一層の努力が望まれる。

出願状況の特徴としては、全国的傾向である国公立大志向とともに、昨年同様首都圏大学に向かう傾向が強くみられた。国公立大の出願者数は延べ六五五名で昨年と同数である。増減の目立った大学をあげると、東京学芸22（昨年8）、お茶の水11（3）、が増えており、減少したのは東北61（90）、横浜国立14（24）などである。私大出願者数は延べ六三〇名で、やはり首都圏難関大に集中している。青山学院33（昨年20）、中央62（42）、早稲田83（70）が増加しており、減少したのは慶応24（37）、東京理科18（41）、日本13（31）、立命館24（38）などである。私大は易化傾向にあるとはいうものの難関大は厳しい状況にある。

志願先が多様化している現在、生徒達が納得した目標をめざし、着実な努力と強い意志をもってチャレンジしてほしいものである。

平成13年入試主な出願状況（現役）

大学名	13年計	12年計
国立大学		
旭川医大	2	2
帯広畜産大	2	—
北見工大	1	—
北海道大	32	32
北教大札幌校	2	—
弘前大	10	7
岩手大	16	21
東北大	61	90
宮城教育大	6	13
秋田大	94	90
山形大	9	8
福島大	11	12
茨城大	15	3
筑波大	27	28
図書館情報大	1	—
宇都宮大	6	9
群馬大	3	5
埼玉大	18	17
千葉大	42	40
お茶の水女	11	3
電気通信大	5	6
東京大	11	15
東京医薬大	1	1
東京外大	8	3
東京学芸大	22	8
東京芸大	2	4
東京工業大	6	10
東京商船大	1	—
東京農工大	3	10
一橋大	10	12
横浜国立大	14	24
新潟大	65	53
富山大	1	2
富山医薬大	7	1
金沢大	8	6
福井大	1	—
山梨大	2	1
山梨医大	4	5
信州大	1	4
静岡大	8	3
浜松医大	1	—
豊橋技術科学大	3	—
名古屋大	3	3
名古屋工大	2	—
滋賀大	1	—
京都大	10	13
京都教育大	1	—
神戸大	5	3
島根大	1	—
岡山大	2	1
広島大	3	—
山口大	1	—
九州大	2	—
宮崎大	2	—
合計	586	582
公立大学		
はこだて未来大	1	—
札幌医大	1	1
岩手県立大	1	4
宮城大	5	8
秋田県立大	3	6
福島県立医大	1	—
茨城県立医療大	1	—
高崎経大	7	6
埼玉県立大	1	—
東京都立大	9	11
都立科技大	2	—
横浜市立大	7	12
金沢美術工芸大	2	—
福井県立大	1	2
都留文科大	7	6
岐阜薬大	1	2
静岡県立大	8	5
名古屋市立大	1	—
京都府立医大	3	—
大阪女子大	2	—
大阪市立大	2	—
神戸市外大	2	—
九州歯大	1	—
合計	69	73
私立大学		
札幌学院大	2	2
北海道医療大	1	3
北海道薬大	1	1
酪農学園大	1	1
青森大	3	1
岩手医科大	3	—
東北学院大	1	4
東北薬大	5	2
東北芸術工大	1	2
自治医大	4	4
獨協大	7	4
文教大	5	7
千葉工大	3	1
青山学院大	33	20
桜美林大	1	8
大妻女子大	1	3
学習院大	9	9
北里大	8	5
慶応大	24	37
国学院大	2	2
国際基督教大	5	1
駒澤大	3	7
芝浦工大	11	—
上智大	21	14
昭和女子大	3	—
昭和薬大	7	1
成蹊大	9	8
成城大	3	2
専修大	3	19
創価大	2	2
多摩美大	2	3
中央大	62	43
津田塾大	10	—
東海大	1	1
東京家政大	3	1
東京経大	3	6
東京工科大	1	5
東京女子大	16	9
東京電機大	1	7
東京薬大	6	—
東京理大	18	41
東邦大	3	3
東洋大	5	17
日本大	13	31
日本女子大	4	6
法政大	48	47
星薬大	3	2
武蔵工大	9	2
武蔵野美大	3	6
明治大	36	44
明治学院大	6	4
明治薬大	4	4
立教大	26	28
早稲田大	83	70
神奈川大	10	6
南山大	2	1
京都産業大	2	—
京都造形大	5	—
同志社大	5	7
立命館大	24	38
京都文教大	3	1
合計	630	685

稲庭うどん・そうめん製造
株式会社　無限堂
代表取締役社長
大島千明
（昭和49年卒）

— 美しさに安心を添えて —
上崎店
英 加賀英呉服店
店主
加賀谷英明
（昭和49年卒）
〒011-0946
秋田市土崎港中央1-3-20
E-メイル kagaei@cna.ne.jp
TEL・FAX 018-845-0213

秋田温泉　さとみ
取締役支配人
渡邉和雄
（昭和49年卒）
〒010-0822
秋田市添川字境内川原142の1
TEL 018-833-7171(代)
FAX 018-833-3718

税理士
長谷部光哉
（昭和49年卒）
〒010-0951
秋田市山王三丁目4番24号
TEL 018（865）1301
FAX 018（864）3339
E-mail:hasebe-af@tkcnf.or.jp

親しみと温かさを
佐野薬局・サノドラッグ
代表取締役社長
佐野元彦
（昭和49年卒）
取締役副社長
佐野克彦
（昭和59年卒）
本社
〒010-0912　秋田市保戸野通町3-31

内科・循環器科
南浦医院
南浦光昭
（昭和49年卒）
〒010-0023
秋田市楢山本町1-32
TEL 018-834-1097

新役員を選出
―市役所羽城会―

日中から寒風が吹き荒れ真冬日となった一月十二日、平成十三年秋田市役所羽城会の総会が秋田キャッスルホテルにおいて開催されました。この日は、高橋学校長、丸山同窓会長、斎藤同窓会事務局長にご出席をいただき、会員約二百五十名が集いました。

伊藤（旧姓吉田）由子幹事（H1卒）のきびきびした司会で総会が始まり、会計報告、予算案等の説明・承認の後、新会長に石田一豊氏（35卒・農林部長）、副会長に伊藤高氏（36卒・都市開発部長）を選任しました。

引き続き、懇親会に移り、諸沢現会長（35卒・水道事業管理者）の挨拶に続き、来賓を代表し高橋学校長から、最近の秋田高校は、女子生徒が活力にあふれた高校生活を送っていること、部活動においては団体競技よりも個人競技で優秀な成績をあげていること、進路に関しては点数で決めるのではなく自分が本当に勉強したい分野の大学（学科）を目指すようになったことで全国各地に卒業生が広がっている傾向にあることなどの報告をいただきました。

その後、丸山同窓会長の乾杯で祝宴に入りました。各テーブルとも思い出話など年代を超えた会話に花が咲き、大先輩の話に若い女子会員が耳を傾ける同窓会ならではの光景が見られました。また、途中からは、席を移動して同期生同士集まってにぎやかに杯を酌み交わす姿も増え始め、会話とともに酒食も大いに進みました。

会が盛り上がりを見せはじめた頃、当会顧問の石川市長が到着し、会員への期待と激励を込めた挨拶がありました。

再び歓談の後、長年母校で教鞭をとられた柴田義弘先生（41卒）をはじめ新入会員十六名が壇上に上がり、各自個性的な自己紹介をした後、伊藤智氏（46卒）山田裕之氏（54卒）の音頭による校歌斉唱とエールの交換が全員総立ちのもと行われ、団結心が一層強まりました。

最後に新入会員を代表しての木山貴夫氏（59氏）の乾杯で名残惜しくもお開きとなりました。

（58卒・三浦芳人記）

茨城秋高会
新役員を選任
知道会（水戸）・高同窓会からゲストを迎える

去る十一月十九日、茨城秋高会の総会・懇親会が水戸市で盛大に開催され、秋田高と水戸一高、茨城と秋田の様子や歴史などについて話題豊かな大変にぎやかな会となりました。

本部から小玉得太郎副会長と斎藤広孝事務局長に遠路お出で頂き、また、姉妹提携をしております茨城県立水戸第一高等学校同窓会「知道会」からは、後藤卓三前会長と山形晴一幹事長のご出席を頂き開会となり、まず、総会に先立ち、平成十二年一月三十日に突然ご逝去されました松本善也会長のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げるとともに、在りし日の松本会長を偲ばせていただきました。

茨城秋高会は、「知道会」と「秋田高等学校同窓会」の姉妹提携を機に、平成三年に、茨城県内に在住する同窓生の会として結成されましたが、松本会長には、その発起人として、また、初代会長として多大なご尽力を賜りました。

総会は、会長不在ということもあり経過報告の後、直ちに役員選任を行い、新執行体制を決め、その後、懇親会に入り小玉副会長、斎藤事務局長から、郷里秋田の最近の状況や茨城との歴史的な関係など興味溢れるお話や、母校の様子、後輩の活躍等お聞きし、若き日に、また初冬の郷里の様子に思いを馳せ、楽しいひと時となりました。

また、知道会の後藤前会長、山形幹事長からも、秋田と茨城の縁の深さなどについてお話があり、歴史的にも興味を掻き立てられる有意義な集いとなりました。

茨城秋高会役員

顧問	菊地壬子郎	（昭5）
〃	田村　鉄男	（昭17）
〃	石郷岡英彦	（昭18）
会長	片岡　保夫	（昭26）
副会長	戸島　均	（昭29）
〃	鎌田　新	（昭29）
幹事長	藤原　均	（昭40）
幹事	小林　靖八	（昭34）
〃	小松　利英	（昭37）
〃	高橋　克己	（昭38）
〃	保泉　真一	（昭48）
〃	能登谷　信	（平2）

10周年へ活動はますます盛ん
追分支部「追分三叉路会」

「追分三叉路会」の十二年度総会が十月二十八日、秋田市北部公民館で開催されました。

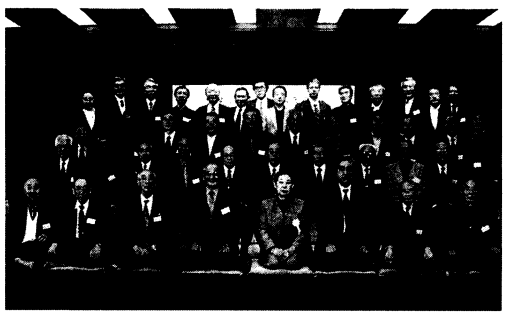
三十名の支部会員が出席。総会に先だち磯村朝次郎氏の講演（秋田市北部の中世＝追分を中心にみる金足、新城地区の歴史の概観）を聴きました。最近市史の編纂に係わり、秋田市の古代・中世の遺跡を調査・研究されている磯村先生の最新のデータをもとにしたお話は、身近な場所の生活空間の過去を繙くものでありかつて我等の先祖がこの地で活躍した時代を甦らせ、一千年の時を超えて私達の目前に繰り広げられることとなりました。

講演終了後、総会・懇親会となり、駆けつけて来られた丸山会長から乾杯のご挨拶を頂きました。会長は杯を手にしながら、得意の法学の立場から憲法改正問題にふれられ二十分以上のミニ講演となってしまい、参加者は膝を組み直して聴き入っておりました。

追分三叉路会は結成から十年となりました。地区同窓会員のご協力の賜物です。平成十三年は十周年の記念行事を行う予定でおります。

（事務局　藤原正三）

今年も年一回の校歌斉唱
近畿支部



十二年度総会並びに懇親会が大阪駅前の料亭「多幸梅」にて、来賓の高橋学校長、丸山同窓会長、井上副会長、また秋工、秋商、本荘高校の各同窓会代表、近畿県人会代表などを迎え、初参加の支部会員七人を含む総勢五十人が出席し、十一月九日（日）に開催された。

総会は十一年度活動報告、会計報告、会則の一部改正など原案通り承認され、その後支部の更なる拡大と発展を期し、懇親会へと移った。

最長老佐藤四郎氏（S10卒）が体調不良をおして出席、老いも若きも古里や母校の話に花が咲き、まだまだ若さ溢れる諸先輩の元気に刺激されつつ、後ろ髪引かれる思いでお開きとなった。

最後に応援委員長の実績を持つ阿部稔氏（S32卒）をリーダーとし全員で校歌、校友会歌を合唱し、新世紀の再会を誓い合った。

汀友会（秋中・秋高同窓会北崎支部）総会開催

二千年十一月二十一日（火）午後六時から「ホテル大和」で会員五十数名参加して開催された。校歌、汀友会歌斉唱の後案件が予定通り承認され安田庄一（S23）会長のあいさつに始まり来賓の丸山健同窓会会長・阿部正博教頭の同窓会、学校の現状等の報告を交えたあいさつ、工藤雄一氏（S33）のミニコンサート（ピアノと歌）があり喝采を得た。続いて懇談に入り夜遅くまで母校の発展を願い、それぞれの高校時代の思い出に話が尽きなかった。

あいさつする丸山同窓会長

KAISEI 築地より直送いたします 海老、カニの卸、小売
代表取締役 佐藤哲也（昭和49年卒）
株式会社 海星
〒104-0033
東京都中央区新川2－21－16 グランドハイツ八丁堀802
TEL（03）3555－8308
FAX（03）3555－3866

株式会社 ヤマキチ商店
代表取締役 茜谷浩二（昭和49年卒）
秋田市卸町4－8－14
TEL 018（862）6172
FAX 018（862）0971

石田歯科医院
〈診療時間〉
平日 9:00~12:30 14:00~18:30
土曜日 9:00~13:00
日曜・祭日 休診
石田達郎（昭和50年卒）
秋田市南通亀の町5－7
☎ 018－832－5482

石川医院
石川浩一（昭和50年卒）
〒011-0951
秋田市土崎港相染町字大谷地35
TEL 018（845）0284
FAX 018（857）1667

次世代へ環境を継承するために
秋田環境測定センター株式会社
代表取締役 森洋（昭和50年卒）

角館建設工業株式会社
代表取締役 仲野谷藤吾（昭和50年卒）
〒014-0347
秋田県仙北郡角館町小勝田字小倉前25
TEL 0187（54）3184
FAX 0187（54）1088

株式会社 中央科学
医療機器・材料
理化学機器 販売
代表取締役社長 加藤透（昭和50年卒）
秋田市卸町三丁目1－22
Tel 018－863－6111

コンサート企画・運営
イベント制作
株式会社 P.G企画
杉村向陽（昭和50年卒）
〒107-0052
東京都港区赤坂3丁目6番10号 第3セイコービル8F
TEL 03－3585－4571(代)
FAX 03－3586－7240

創業146年 辻兵
代表取締役社長 辻良之（昭和50年卒）
〒010-0921
秋田市大町二丁目3－27
TEL 018－863－1234(代)

山内歯科矯正歯科
院長 山内靜（昭和27年卒）
矯正 山内積（昭和60年卒）
秋田市中通3－1－7
TEL 018－832－5252

IT革命のお手伝い！
STUFF
TEL:018-833-4099
E-mail:info@stuff.co.jp

税理士 武田亨（昭和49年卒）
〒010-1414
秋田市御所野元町7～20～10
TEL（018）826－0080
FAX（018）826－0081
E-mail:t_takeda@tkcnf.or.jp

すばらしい出会い 一八会 健在なり

昭和十八年三月卒業生の通称・秋中一八会は、秋色、山に染まり始まる十月三日、アキタニューグランドホテルで開催した。

母校を巣立って早や五十有七年、二十世紀の閉幕近し、過ぎ来し方を振り返り感無量。懐かしい友との再会、握手。

定刻、会員二十七名の出席のもと、今は亡き友のご冥福を祈り黙祷を捧げた。

議事に入り、会務報告、会計報告、監査報告を担当幹事より説明をし、会則の一部改正案を含めて承認された。

総会終了後、賑やかに記念写真撮影を終え、戸澤幹事の司会で懇親会に移った。会員相互の近況に花が咲き、特に、健康、医療への関心の深さが印象的でした。

和気あいあい、二時間にわたる歓談を惜しみつつ、土井常吉君の音頭で万歳三唱し、新世紀、最初の年の再会を約し散会した。

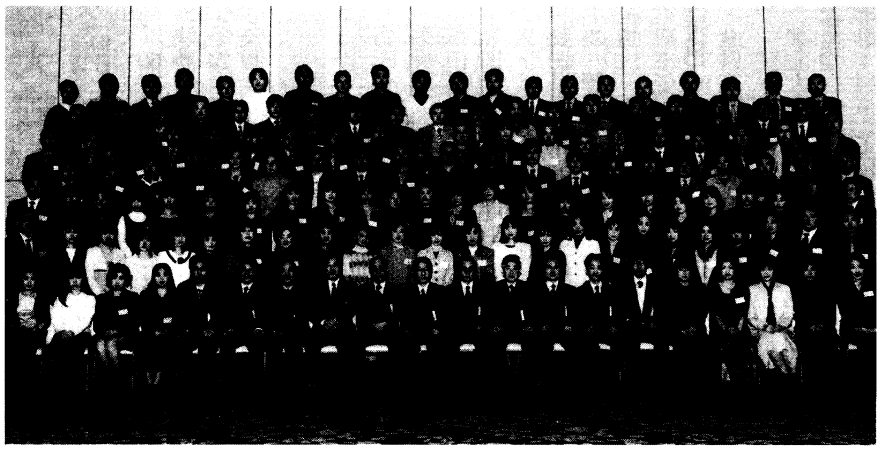
（佐藤進記）

平成3年卒 卒業10周年記念

平成十三（二〇〇一）年一月二日（火）に平成三年秋田高校卒業十周年記念同期会が秋田ビューホテルで開催されました。新たな世紀の幕開けにふさわしく、恩師、卒業生あわせて約百五十人が参加し、盛大な会が開催されました。

全体での記念写真の撮影の後、生徒会長であった高橋英行さんからあいさつがあり、開会の口火が切られました。来賓として多くの恩師の先生方を迎えましたが、当時の学年主任の仲山文男先生（現秋田中央高校勤務）と、化学を担当していただいた鍋島太郎先生（現秋田北高勤務）にそれぞれ祝辞と乾杯の音頭をいただき、にぎやかな同窓会が始まりました。

はじめに、在校生である放送委員会の後輩の皆さんに、現在の秋高の風景を撮影したビデオテープをこの会のために企画・作成していただきました。放送委員会の皆さんへはこの場を借りてお礼いたします。十年経過しても秋高は当時と変わらず、校内の風景や運動会や秋高祭などの行事の様子、生徒会長からのメッセージが放映されると、会場から歓声が上がり懐かしい思い出に花が咲いていたようです。和やかな雰囲気で会は進められ、会も中盤にさしかかった頃ご出席いただいた先生方によるリレー方式の近況報告をしていただきましたが、どの先生方もちっとも変わらず、若々しく大変お元気な様子でした。



終盤にさしかかり、同期会の恒例となっている応援団による秋高音頭の演舞と、出席者全員による校歌斉唱を行いましたが、厳しかった応援歌練習を思い出す一方で、久しぶりに口にした校歌に時折つまずきながらも最後まで歌い上げていたようです。

十年ぶりの再会に喜びは尽きることなく、同期会の二時間半はあっという間にすぎ無事に会は成功のうちにお開きとなりました。同期会終了後もクラス会や部活動のOB会、友人同士の集まりへと分かれて二次会、三次会がおこなわれ、その夜は遅くまでにぎやかに楽しんだようです。

今後もこのような会を開催してほしいという要望が多く寄せられていますので、皆さんの団結したエネルギーを次回以降につなげていただけたらと願っています。今回は残念ながら参加できなかった皆さんも次回の同期会には是非ともご参加くださいお待ちしております。最後になりましたが会の開催にあたり精力的に幹事をしていただいた皆さん（秋元昌人さん、小島立子さん、加藤悟さん、金子雄司さん、小竹倫子さん、佐々田朋美さん、佐藤孝さん、辻康平さん、斎藤慎一さん、牧野悌子さん）そして全面的なご協力をいただきました秋田高校同窓会事務局の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

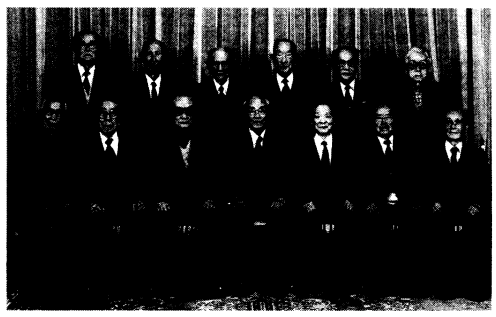
（幹事代表　保坂善真）

昭八会同期会を無事終えて

手形高台の母校を訪問

昭和八年卒（四十六期会）

昨年十一月四日、昭和八年卒の最後の同期会を開催、集合地で昼の会食後バスにて手形高台の母校訪問、参会者十三名。モダンな校舎や施設と、明るく活発な生徒の校内活動に何か頼もしさと希望を感じながら見学。同窓会館で懇親会。高橋校長より秋高の現況報告があり、事務局より校章を型どった金色の文鎮を記念に各自頂戴して解散しました。



この同期会が結成以来、会員一同からの多大の賛同協力を得ることが出来、今日まで喜びをもって継続することができました。しかし会員の齢八十五を過ぎ健康上からの事由で会の運営が難しく残念ながら今回で終了することになりました。

世話役幹事として、同窓会各種記念事業や運営行事等に積極的に参加し、特に昭八会の友情強化活動を平成五年の秋高百二十周年記念事業と平行して歩調を合わせ、昭八会としての基金を設けそれによって昭八会の永眠者に対する香典献上、弔電献納してきました。「昭八会」の最近の永眠者は平成十一年は八人出ましたが、平成十二年十二月末現在おめでたいことに今年度に入ってまだ一人の物故者も出ておりません。

卒業者二百一人。現在の登録者数五十三名。不明者三名。逝去者数百四十八名となってます。

昭八会が終わりとなっても、母校や昭八会の一人一人が心から離れません。今後は個人的にそれぞれの友情を持ち続けることができると思ってます。

現在は、無事会を終えての安堵感で一杯です。長い間支援してくれた同期の朋友に感謝し秋高同窓生後輩諸氏の健勝と母校の隆盛を祈念致します。

（幹事　藤本儀二郎）

解秋高昭八会
貝沼泰堂

茫々六十七年前
倶出校門同学の縁
十有三人秋日集と
追懐談笑最終の筵

（平成12・11・4）

八十期三年G組 ミレニアム同級会

写真前列左より
川本敏男、高橋竹蔵、畠山一郎、大島民治、藤本儀二郎、深味春輝、鈴木孝二

後列左より
和賀政男、長岡八百司、鈴木文四郎、館山松之助、貝沼研造、畠山正高

♪春のうららの隅田川…で一はない。秋深き、十一月五日夜の隅田川である。なん百万ドルの夜景か分からないが、大東京の絢爛たる光が水面に映え、いなせな兄さんの操る屋形船は静かに流れ、ミレニアムだけれど江戸情緒たっぷりだ。

こうして我ら八十期三年G組のクラス会は始まった。おそらく、秋高百二十七年の歴史で、隅田川の屋形船を借り切って同級会をやったのは、我らが嚆矢ではないだろうか。

錦繡さかりの秋田から空路、担任であった恩師・菅原敏雄先生ご夫妻と十一名が馳せ参じた。総勢二十五人。

開宴前に菅壽山（菅原先生の号）作の漢詩『庚辰秋泛舟遊隅田川』が披露され、先生の授業が行われた。

晩秋月夜遊墨水
清風徐来過舷際
師弟同行歓再會
與飛羽觴壽健在

さすがはプロである。先生は未来の出来事を、現在の事として詠じているのである。

毎年、菅原先生のこの漢文の授業を受けないと、我ら生徒には六十五歳になっても正月が来ないのである。

恒例の、先生の奥様お手作りの見事なレザークラフトの眼鏡ケースが、初参加者も含めた三名の級友に手渡された。これで三十五名の級友が、奥様の恩恵に浴したことになる。

三Gに女生徒は一人もいなかったが、卒業後に念願が適って、先生の奥様という紅一点を得たことになる。ありがたいことである。

最後は全員が輪になって肩を組んでの校歌「天上はるかに…」の大合唱となったが、あの滝廉太郎も、この夜は梁田貞に敵わなかった。

（畠山卓三記）

秋田高校 昭和59年卒 同期会
幹事長 長谷川宏之

くすり・健康食品
ドラッグ けやき通り
飯田　誠（S59年卒）
有限会社 けやき通り薬品
秋田市山王1丁目3－5
TEL 018-866-0770 FAX 867-0071

稲葉歯科医院
稲葉友良（S59年卒）
平日 9：00～12：30
土曜 9：00～18：00
018(862)4726
秋田市川元開和町10－20

写真のことならなんでも
㈱越中谷写真商会
同期会写真出張撮影承ります
会長 越中谷正美（S29卒）
社長 越中谷孝一（S59卒）
営業 越中谷正博（H6卒）
秋田市土崎港中央2-24（ジャスコ向い）
TEL 018-845-1573 FAX 846-6968

清水歯科クリニック
院長 清水真木雄（S59年卒）
秋田市保戸野千代田町2－41
TEL863－3443

秋田倉庫株式会社
代表取締役社長 住吉　和（S59年卒）
秋田市寺内字イサノ95
TEL018－862－6264
FAX018－862－1718

田宮税理士事務所
税理士 田宮健一（S29年卒）
税理士 田宮俊一（S59年卒）
秋田市手形字中谷地66－4
TEL018(834)6427
FAX018(832)0686

太平山頂上鎮座
太平山三吉神社
宮司 田村泰教（S59年卒）
秋田市広面字赤沼3の2
電話018(834)3443 FAX(835)6864

ひがしとおり歯科医院
秋田市東通3－10－15
tel 018（831）8867
山本歯科医院
角館町田町上丁50－2
tel 0187（53）2058
山本高敬（S59年卒）

平成13年度　名簿登録状況

平成13年1月20日現在

年度	現総数	登録住所判明者数	住所不明者数	住所判明者率	逝去者数	年度	現総数	登録住所判明者数	住所不明者数	住所判明者数	逝去者数
昭2	16	11	5	69%	134	昭40	507	416	91	82%	14
3	11	9	2	82%	122	41	508	315	193	62%	14
4	26	20	6	77%	94	42	518	391	127	75%	21
5	49	23	26	47%	122	43	518	389	129	75%	14
6	53	26	27	49%	142	44	515	268	247	52%	14
7	73	41	32	56%	158	45	507	370	137	73%	13
8	53	50	3	94%	148	46	487	392	95	80%	5
9	82	42	40	51%	112	47	469	220	249	47%	9
10	52	50	2	96%	160	48	447	309	138	69%	8
11	67	62	5	93%	148	49	450	362	88	80%	5
12	80	74	6	93%	123	50	438	324	114	74%	12
13	85	63	17	74%	127	51	452	305	147	67%	5
14	106	78	28	74%	107	52	468	264	204	56%	5
15	103	93	10	90%	110	53	461	323	138	70%	4
16	118	114	4	97%	92	54	448	205	243	46%	5
17	108	96	12	89%	98	55	452	239	213	53%	4
18	154	143	11	93%	95	56	447	231	216	52%	1
19	151	127	24	84%	91	57	445	256	189	58%	4
20・5	185	155	30	84%	79	58	460	220	240	48%	4
20・4	180	155	25	86%	73	59	446	319	127	72%	7
21	116	89	27	77%	47	60	446	375	71	84%	4
22	126	114	12	90%	31	61	469	299	170	64%	6
23	227	199	28	88%	46	62	474	305	169	64%	4
24	(93)				(17)	63	459	335	124	73%	1
25	264	240	24	91%	72	平1	459	361	98	79%	1
26	330	279	51	85%	49	2	458	397	61	87%	2
27	358	297	61	83%	74	3	465	389	76	84%	1
28	351	258	93	74%	57	4	463	376	87	81%	0
29	466	423	43	91%	59	5	462	391	71	85%	1
30	461	369	92	80%	40	6	457	400	57	88%	0
31	457	359	98	79%	44	7	459	406	53	88%	1
32	451	341	110	76%	32	8	461	412	49	89%	1
33	468	391	77	84%	41	9	446	421	25	94%	0
34	484	407	77	84%	31	10	428	410	18	96%	0
35	486	371	115	76%	34	11	404	396	8	98%	1
36	474	396	78	84%	27	12	415	396	19	95%	0
37	471	371	100	79%	31						
38	473	334	139	71%	23	大正	49	42	7	86%	1,462
39	483	444	39	92%	15	定通		792			

総数　27,105名（海外215名）　　逝去者数　5,990名

柔道部　東北新人柔道大会　12年ぶり2回目の優勝

運動部の成績

〔柔道〕
・東北新人柔道大会
2回戦　4人残し　五所川原農林
3回戦　3人残し　羽黒
準決勝　2人残し　田村
決勝　1人残し　盛岡中央

〔剣道〕
・東北高等学校剣道選抜優勝大会
男子団体予選リーグ
秋田2―0不来方
秋田1―1南今津（本数勝ち）
準々決勝
秋田1―2仙台育英

〔ラグビー〕
・東北新人ラグビー大会
1回戦　対釜石南　60（34―0／26―0）0
決勝　対黒沢尻工　24（17―5／7―0）5
準決勝　対福島　20（10―7／10―7）14
優勝（Ⅱ部）

文化部の成績

〔吹奏楽〕
・全日本吹奏楽コンクール中央地区大会　金賞
秋田県大会　銀賞
・秋田県アンサンブルコンテスト　金賞・打楽器部門
・秋田県青少年音楽コンクール　管・打楽器部門　金賞　酒出潤一郎（トランペット）

〔将棋〕
・全県高校将棋新人戦　第2位　瀧戸　礼央
東北大会・全国大会出場

〔放送〕
・第4回東北高等学校放送コンテスト　アナウンス部門　奨励賞　川村　将

新生徒会総務決定！

会長　若山　佑太（2F）
副会長　金　俊太郎（2G）
副会長　柳舘安由子（2I）
会計長　渡辺佳央里（2J）
書記長　嵯峨　寛子（1B）

〈秋高の自由に対して〉

若山　現状として、今あるものは自由ではなく、個々の甘えに他ならない。これを自律によって本来の『自由』にしていかなければならない。かつてはそうであったように。

金　『自由』が持つ意味。それを真剣に理解しようとすることが『自由』への第一歩なのでは無いでしょうか。

柳舘　自由を自分のものにして、初めて秋高生である自覚が持てると思います。

渡辺　『自由』というものの中で生活していくことで、人間として成長できることは素晴らしいことだと思います。

嵯峨　個人の責任をしっかり持ったうえでこそ、『自由』は成り立つものだと思います。

〈三大行事に向かって〉

若山　三大行事の意義を常に念頭に置き、三大行事に溢れているチャンスを掴み取り、秋高の三大行事をその場限りのものになり下げないように最大限努力していきたい。

金　常に初心を忘れず、形式に捕らわれず、自由な発想のもとに取り組んで行きたいと思います。

柳舘　もう秋高での三大行事も最後になるので、めいいっぱい楽しんで、今年の三大行事を最高のものにしたいです。

渡辺　自分の仕事を確実にこなし、皆が楽しめる三大行事作りに一役買いたいと思っています。

嵯峨　自分の仕事を責任を持ってこなし、また総務・行企全員と協力して取り組んでいきます。

〈総務として〉

若山　生徒会活動の過去分析、秋高生の現状把握。それが全てのスタートだと思って頑張っています。総務一丸となって身近な生徒会というものを実現して行きたい。

金　感謝の気持ちを忘れずに総務や諸関連機関との連係を綿密にとることを心掛けています。

柳舘　肩書きに縛られずに、常にみんな（生徒）と同じ立場で物事を考え、実行に移していくことを目標にして励んでいます。

渡辺　毎日の地道な活動はもちろん、総務全員で協力して任期満了まで頑張って行きたいです。

嵯峨　生徒一人一人の意見を尊重して、皆がより前向きに活動していけるように、これからも努力していきます。

慶祝

・**文部大臣教育者表彰**
高田屋敏夫氏（S34）
松田　至弘氏（旧職員）

・**厚生大臣賞**
医療関係の功績
鷲谷　澄夫氏（S19）
宇都宮市在住

・**秋田県スポーツ功労賞**
高橋　昌一氏（S21）
柴田康二郎氏（S28）

平成12年12月発行第63号に藍綬褒章受章者の古田重明氏（昭和33卒）を吉田重明氏と誤っておりましたのでお詫びして訂正させていただきます。

哀悼（敬称略）

謹んで哀悼の意を表します

12年
3月　佐藤　漸　S9
4月　柴田与太郎　S5
永井冨美雄　S24（2中）
5月　黒沢　章　S34
6月　石沢　芳男　S7
成田　忠政　S25（夜）
7月　大里　宏二　S27
8月　加藤　治夫　S20（5）
9月　岡部　直樹　S45
菊地　茂　S44
斎藤　淑夫　S13
10月　小松　信彦　S34
須藤　一郎　S22
11月　高山　寿一　S28（定）
岡本　定夫　S23
12月　植村　壮一　S16
桑原卯一郎　S21（2中）
小林　次郎　S20（5）
小川良太郎　S14
中井　恒男　S14

13年
1月　加藤　貞昌　S7
三神　正人　S27
畠山　春男　S29
渡部　春雄　S27
笹木　正昭　S19
小玉　優子　S59
2月　武田　賢亮　S16
高橋　慶治　S16
工藤　春夫　S15

会務事項報告

1・2　平成3年次卒業十周年同期会
11　第3回広報委員会
12　秋田市役所羽城会
25　第2回名簿委員会
2・1　年次名簿委員会議
平成12年度同窓会入会式
10　昭和60年次同期会
16　能代・山本支部総会
23　大館支部総会
仁賀保象潟地区支部創立総会
3・1　秋高卒業式
同窓会だより64号発行

事務局だより

●学校創立百三十周年も二年後となり記念事業実行委員会が発足しています。百二十周年のときは同窓会館建設という念願の目標が達成され、現在、同窓会や学校に有効に活用されております。

このたびの事業の一つに秋高先覚者の列伝の編集が進められていますが、公費では実現が難しいものの学校にとって必要不可欠な施設整備の要望が学校側からあり、その支援実現のため委員会で検討審議中です。

●知道会（水戸一高同窓会）と姉妹提携してから十年経過。来年は佐竹家が常陸から秋田へ国替えして丁度四百年目。佐竹入部四百年祭りの催しを県で計画中とのこと。今一度秋田茨城両県にまたがる文化など多くの面でより深い交流を考えたいものです。

●同窓会支部のあゆみ、支部で発刊された記念誌、年次同期会での会報、記念出版物アルバム、同期会誌等の資料の収集と整理をしております。参考資料や情報がございましたら事務局までお知らせ願います。

●今回（二月二十三日）由利郡仁賀保地区に秋高同窓会支部が新たに創立されました。職場や地域における校友の交流を深め親睦をはかる集いのできたことは喜ばしい限りです。最近学区制や生徒数減などの影響で会員の減少する支部が増える中での新支部誕生、同窓会全体で歓迎したいと思います。

編集局

十数年ぶりという大雪と寒気もおさまって、校地内のそこここにも春の芽吹きが感じられるようになりました。

「だより」第64号をお届けしますので、宜しくご高覧の上ご意見やご感想をお寄せくださるようお願い致します。